



HP「辻よし子と歩む会」で検索



「辻よし子と歩む会」

☎ 190-0154

あきる野市高尾 182-1 佐橋方

電話 & FAX : 042-596-4569

e-mail : kusasigi@nifty.com

共同代表 : 柏倉倫子・青木真知子

小さな声に耳をすまし、大きな力にひるまず！

## 「陳情」は市民からの政策提言、 もっと誠実に議論を

6月議会に陳情を出しました。「図書館協議会」を公開してほしいというものです。

多摩26市で協議会が非公開なのは、あきる野市を含めてわずか6市(2018年当時)。図書館が本や情報を提供するばかりではなく、そのことで住民の力を育てる役割を担っていることを考えれば、図書館運営に意見を述べる協議会は、ぜひとも傍聴したい会議です。

陳情は、福祉文教委員会で審議され、結果は「趣旨採択」(陳情の趣旨には賛成だが、当分は実現不可能な場合)。つまり「時代の流れ」だから公開することには賛成だが、それには時間がかかる、だから「一刻も早く」「早期に」という文言が入った陳情を採択するわけにはいかない、「趣旨採択」が妥当だという結論でした。

「一刻も早く」「早期に」という文言は、他市の状況やこれまで図書館に要望してきた経緯を踏まえたもので、公開にそれなりの時間がかかることは、十分承知しています。こうした言葉尻を捉えた議論には驚きました。

議会最終日、辻さんが陳情を採択すべきとの立場から討論し、胸のつかえが取れる思いでした。

今議会には、4つの陳情が出されましたが、私たちの陳情の他はすべて不採択。市民からの切実な陳情に、議員の方々は果たして誠実に向き合ってくださっているのか、疑問を感じた陳情体験でした。

(H・K 草花在住)



## 給食が無くなった日

「聖火リレーに伴う当日の給食の提供停止について」。6月初め、こんな文書が学校で配布されました。交通規制により、その日の給食がセンターから配送できないという内容です。市内全ての学校が対象というわけではないので、子育て世代でも知らない人が多いと思います。

これを目にして、まず、おかしいと感じました。おかしいと思う私がおかしい？ いや、やっぱり納得いかない。お弁当を作るのが面倒なのではありません。うちの子の食事を、普通の学校生活を、そう簡単に蔑ろにしてくれるなどということでは、国をあげてのお祭りのためには、協力するのが当たり前、という前提に怒りさえ感じるのです。

昨年3月の突然の休校に始まって、子どもなりに山ほどのストレスと折り合いをつけて生活しているところへ、また皺寄せ。行政は、子どもの権利を考えてくれているのか？ と疑いたくなります。

オリンピックが予定通り開催されることを知らなかった娘達、開催を知って「なんで？」と疑問を口にしました。「学校でオリンピック・パラリンピックの勉強をした？」と聞いても、怪訝そうな顔。オリパラ教育よりも、コロナを題材にした方が、よほど「自分ごと」として世界について多くを学べるんじゃないかと思うのは、私だけでしょうか。

追記：聖火リレーはその後中止になりましたが、給食提供は停止のままでした。

(K・T 秋川在住)





## 2021 市議選を振り返って



私が辻さんの選挙に関わって今回で3回目。前回の1582票を最低でも維持、出来ることなら更に上積みを目指して、と気合を入れて臨みました。準備段階から

駅頭、その他の所での演説、支持者・支援者への挨拶回り等に、辻さんと行動を共にしてきました。選挙告示後には、連日色々な方々（他市の市議会議員の方々等）が、応援に入ってくださり、日々盛り上がっていった感じがしました。

そして、いよいよ投票日。<sup>かね</sup>予てより予想はされてはいたものの、やはり投票率が思わしくなく、辛うじて50%ギリギリでした。今回、途中からでしたが、開票を見学することができ、その時点で予想を上回る2000票が出ていて、ビックリでした。これも、これまでコツコツやってきたことが、やっとここに来て結果に出たのだと、改めて感じました。また、これだけの支持を得たということは、常に市民目線で考え、行動している辻さんの姿勢が、多くの市民が議員に望んでいることなのだと、強く思いました。



それにしても残念なのは、若年層（とりわけ20代）の投票率の悪さ。これは何を物語っているかと言えば、政治に対する無関心。「どうせ誰がやっても何も変わらない」「自分には関係ない」等々の諦め。それが若年層中心に相当広がっていることを改めて感じました。

無党派  
一人会派

(K・K 引田在住)

今回の市議選、辻さんは、日頃の活動が評価され、2千人を超える市民の支持を得て当選しました。辻さんの活動を支え、市民に伝えようとがんばっている、多くの仲間の存在も大きかったと思います。

ただ、投票率が下がり続けていることは、気がかりです。有権者の半数近くが棄権。20代では7割以上が棄権しています。なぜなのか、まず私たちの足元から考えてみませんか？



今回の市議選でも、ほとんど名前だけを大声で連呼する選挙カーが多かったこと！家で仕事をしている人を始め、多くの人が眉をひそめていたことに気づかないのでしょうか。

また、今回も、町内会館（自治会館）を選挙事務所にした候補者がいました。会館は町内会のものですから、町内会がその候補者を推しているようで、違和感があります。町内会の全員がその候補者の主張に賛同しているはずもないのですから、違う考えの人は不快に思うかも知れません。

様々な考えの人が暮らしていることに思いを巡らせ、選挙のあり方も見直しましょう。そして、どうすれば若者も政治に関心を寄せるような社会にできるか、一緒に考えていけたらいいな、と思います。



(S・Y 高尾在住)

### 辻よし子・プロフィール

1960年生まれ。小学校教員を経て、ボランティアとしてタイの農村教育に関わる。1995年よりあきる野市に暮らす。「川原で遊ぶ会」を中心に、市内の環境保全活動に取り組む。3.11以後、新たに脱原発の市民活動を始める。2015年10月の補欠選挙で市議に当選。現在、3期目。常任委員会は福祉文教。草花で、夫と次男、ネコ1匹と暮らす。

